

# 仕事と家庭、両立してこそ 一人前の男である



ひでちゃん（ご主人）ご家族とは、もう10年ほどのお付き合い。  
2才の娘さんもスクスクと育っています。

その昔、ひでちゃんは奥さんの気持ちをイマイチ理解できずに、奥さんを  
イライラさせていました。（今でも多少はある）  
よかれと思ってしたことが、相手にとっては迷惑だったり・・・

「こういうことをしたら、妻はどう思うだろう？」  
相手の立場に立って考えることが、イマイチ苦手だったんですね（^ 0 ^）

そんなひでちゃんですが、彼の素晴らしさは「素直」なところ。  
相談室で、「そこが違うんだよ～」「そうじゃないんだよ～」  
奥さんから、私から、ある時は私の妻からダメ出しされても腐らない。

「ムカついた！人をバカにしやがって！もう俺は二度とここに来ない！！」  
そうした強がり、つまらない男のプライドがなかった。

そんな彼に私が終始一貫してアドバイスしてきたこと。それは

## 「仕事と家庭の両立」

いくら会社のため、収入のため、仲間のためだとしても、奥さん子どもを泣かせるような生き方はしないように。

俺は身を粉にして働いているんだぞ！ 誰のためだと思っているんだ！  
誰のおかげでメシが喰えると思っているんだ！！

そういうことを言う男は、もはや“化石”。  
恩着せがましい男というのは、無償の愛を知らない幼稚な甘えん坊。

家庭を持つということは、「妻子を背負う、護り続ける」ということ。  
「働いてやっている」「面倒みてやっている」という考え方は間違い。

「～してやっている」という“男のおごり”。  
いくら地位名声財産があっても、肩書きは最高でも、男としては最低。  
子どもができる前に、しっかり修行するんだよ！

そんなアドバイスをして、いつしか時は経ち・・・

2年前には待望の娘さんが生まれて  
「いい夫、いい父になったなあ～」「幸せな家庭を築いているなあ～」  
安心していたら、いきなり

「先生、仕事辞めました」

え、えっっっ～～～( ; )!!

「どうして急に？ リストラじゃないよね？」  
「違います、自分から辞めたんです」  
「出世コースにいて、どうして？ さすがに奥さん不安だろう？」  
「再就職先のあてもなく、妻を不安にさせて申し訳なく思っています」  
「どうして転職しようと思ったの？」  
その返答に感動しました。

「もっと妻子といっしょに過ごす時間を持ちたかったからです」

今の仕事では、この先、仕事と家庭の両立は不可能。  
きっと両立できる、もっと自分が理想とする職場がほかにあるはず。

しかし現実はそんなに甘くない。  
そんな仕事、ほんとうにあるのか・・・

奥さんは、不安心配症のマイナス思考でした。  
それが奥さんのほうも、漢方相談を通じてだんだんと変わっていきました。

子育てをしながら自分も働いていて、正直きつい。これからお金もかかる。  
そんな時に、夫が転職を希望した。昔の奥さんなら  
「次の仕事、見つからなかったらどうするの？ バカ言わないでよ」  
転職に反対していたかもしれない。  
しかし奥さんは、夫の考えに賛同し、夫を自分の勤め先の健康保険に入れた！

ひでちゃん夫婦は太田東西薬局を利用しながら、心身の健康だけではなく  
いつしか「**勇気と覚悟と行動力**」を培っていたのです。

現状に甘んじない、失敗を恐れないチャレンジ精神。  
よりよい家庭を築いていくために。  
前に、前に、ひたすら前に進んでいく。

しかし、何社か面接に臨むも、うまくいかず・・・  
そんな中、  
「今度の会社はボクのやりたかった仕事です！落ちる気がしません！」

“転職が天職になる”と言わんばかりの意気込みでした。

「そこ何人くらい応募しているの？」尋ねると  
「50人くらいの応募で採用は1人です」 ギャツ( ;)!!

最終的に応募総数58人だったそうですが  
な、なんと、ひでちゃん、見事にその1人に選ばれたのでした~~ \ (^o^)/  
競争率、およそ60倍の超難関を突破した!!!

勝因を聞いてみました。

「うちの会社は確かに残業はないですが、度々出張があるので大変ですよ」  
面接で尋ねられたそうですが、大半の応募者は  
「いいえ、大丈夫です。出張先の近くに引っ越ししても構いません」  
自分を猛烈にアピールしたが、ひでちゃんは違った!

「私の転職の動機は、妻子といっしょに過ごす時間をもっと増やしたいという  
想いからですので、正直、出張は好みません」  
バカ正直すぎる返答をしてしまった.....( \_ i)

「奥様は出張に関してどうお考えでしょうか？」の質問に  
大半の人は「妻なら大丈夫です。問題ありません」  
問答無用に従わせる言い方をした。しかし、ひでちゃんは違った!  
「帰って妻に相談してみますが、たぶん協力してくれると思います」  
またまたバカ正直すぎる返答をしてしまった.....( \_ i)

が、しかし!  
その愚直過ぎる返答が、妻を尊重し家族を大切にしている生き方が、逆に面接  
官に好印象を与える結果となった。

弱い男ほど、妻子に強がり威張っています。  
してもらふことばかり考える依存人間。  
ほんとうの強い男は、妻子に素直で優しい。  
自分の向上を考える自立した人間です。

ひでちゃんは、女・子どもを大切にする  
仕事と家庭の両立を掲げる  
太田東西の“一番弟子”です!! (-^\*)/

